

すべてが「強制」だったのか

「従軍慰安婦」問題について、政府が第二次調査結果を公表した。改めて戦争が女性に強いた惨禍に胸が痛む。宮沢首相が訪韓時に表明した「言葉に言い表せない辛苦をなめられた方々に對し、衷心よりおわびと反省の気持ちを上申したい」（昨年一月）という言葉を繰り返す以外にない。

人たちの意思に反して集められた事例が数多く、官憲が直接これに加担したこともあったという部分である。韓国が強く認定を求めていた「強制連行」を、表現こそ遅え、肯定するような意味を持つからである。

だが、政府が何を根拠にこうした結論を導き出したのか必ずしもはっきりしない。慰安婦関係の文書も公表されたが、慰安婦になることを「強要」されたという記録は、オランダの軍法廷における被告の日本軍人の供述ぐらゐだ。多かった朝鮮半島出身者に関する文書で、「強要」「強制」を示す記録は見つからない。政府は、当時の軍人、警察官、慰安婦だった人たちが数千人からの聞き取り調査の結果だとしているが、十分説得力のある説明とはいえない。

慰安婦のほとんどが「強制連行」だったということが歴史的事実としてひとりと歩きしてしまうのは危うい。「強制」の定義にもよるが、多くが「強制」に当たるといわざるを得ない。

従軍慰安婦

強制連行認める

政府 河野長官が謝罪談話

調査報告

集では「強制連行」の事実

ことになった。

政府は四日、従軍慰安婦に関する政府の第二次調査結果を発表し、第二次大戦中に日本軍が関与した慰安所が広範に存在し、朝鮮

も真剣に検討すべきものと述べるにとどまった。

め、中国、オランダ出身者もいた③慰安婦の総人数は不明だが、広範に数多く存在していた④河野長官は会見で「強制連行」があったと明言した。

政府は、調査はこれまで事実上終了したとし、河野長官は日韓関係などアジア諸国との外交関係への影響について「われわれの考えている関係者の調査を精力的に行なった結果、ほとんど網羅した。誠心誠意の努力が理解いただけると思う」と

た。韓国、マレーシア、フィリピンなど関係国に伝えた。ただ今後の対応については

た。韓国、マレーシア、フィリピンなど関係国に伝えた。ただ今後の対応については